

PCITってなに？



PCIT (Parent-Child Interaction Therapy) は、親子相互交流療法と訳されています。1970年代前半にフロリダ大学の Sheila Eyberg 博士によって考案、研究され、その後 Cheryl MacNeil 博士によって編集された療法です。海外では、カリフォルニア大学やシンシナティ病院で、効果が実証されています。日本でも、実践が始まっています。

何歳に効果がある？

2～9歳での効果が実証されています。また、12歳まで可能とされています。

どんな行動に効果がある？

言うことを聞かない、叩いたり蹴ったりする、暴言をはく、物を壊す、落ち着きがない、嘘をつく、自信がない、etc・・・

遊びの重要性

子どもは遊びを第一の手段として、問題解決のスキルを身に付け、発達を促していく (Eyberg)

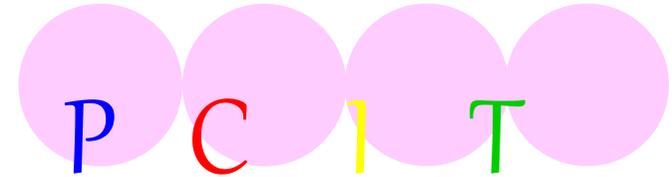


武蔵野大学心理臨床センター

子ども相談部門

東京都江東区有明三丁目3番

Tel: 03-5530-7696



Parent-Child Interaction Therapy

～親子相互交流療法～

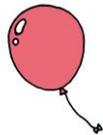




Child Directed Interaction

CDI ティーチング

CDIのスキルを学びます



CDI コーチング

子ども主導で遊びます。適切な行動に対して注目し、誉めることで、それが正しいことであると教えます。また、愛着の絆を深めます。



Parent Directed Interaction

PDI ティーチング

PDIのスキルを学びます



PDI コーチング

保護者が主導で遊びます。適切な行動を増やし、不適切な行動を減らすための方法を練習します。愛情を持ってしつけることを学びます。



ライブ・コーチング

PCITの大きな特徴は、ライブ・コーチングです。トランシーバーを使い、部屋の外にいるコーチから、どうすれば良いかを分かりやすく伝えられるため、その通りにするだけで技術が身に付きます。また、子どもの変化を伝えられ、保護者がうまくやれたことを誉められます。その場でコーチを受けられるため、保護者も子ども、体験しながら習得し、効率良く変化していきます！



指導者からの指示で子どもと関わるスキルを直接学ぶ



ライブコーチング
(実況指導)



マジックミラー越しにトランシーバーで保護者に指示

落ち着きが無く、友達とも仲良く遊べず、話も聞けない子でしたが、PCITを始めてすぐ、遊びに集中するようになり、「特別な遊びやろう」と誘ってくるようになりました。他のことでも集中できるようになり、言うことも聞くようになり、子育てに自信が持てました。コーチに見られていることは、恥ずかしくもあり緊張しますが、困った時には助けてくれる人がいるんだと安心できるようになりました。